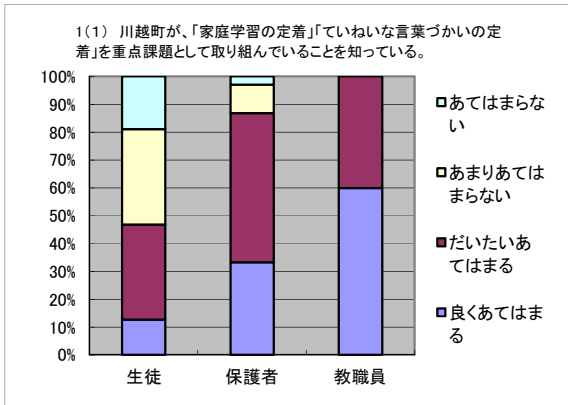
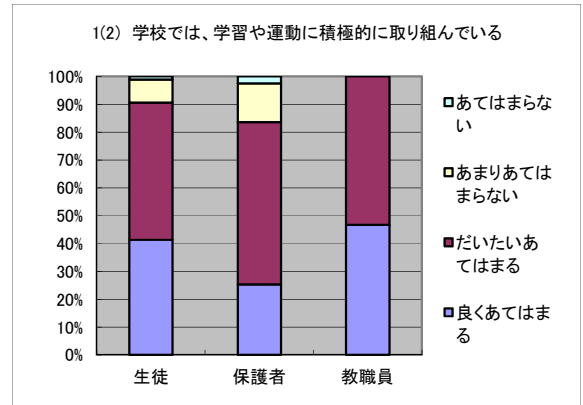


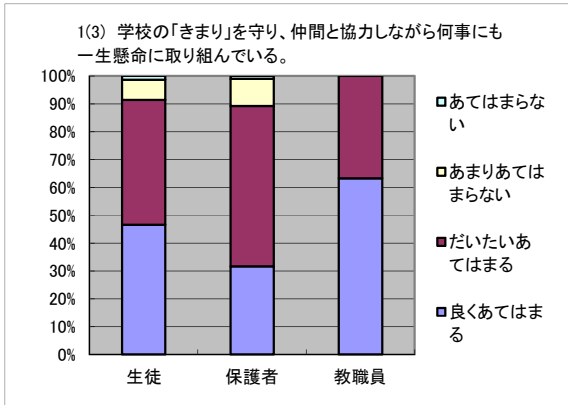
平成27年度教育活動に関するアンケート集計結果 (H26.12実施)



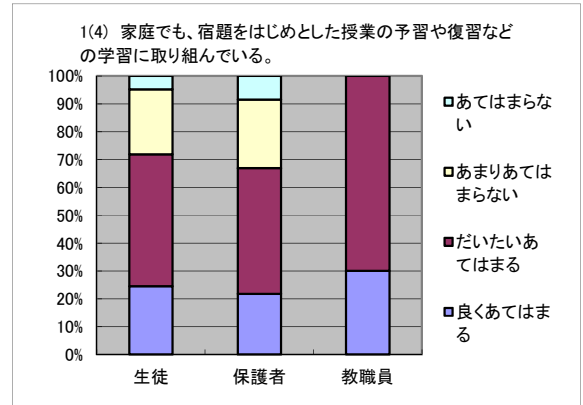
昨年度と同様、この項目の生徒の満足度が最も低い結果となった。しかし、昨年度と比較して、「知っている」と答えた生徒が10%ほど増加したことが成果として挙げられる。
 教職員の満足度は非常に高いことから、指導する側としては、十分に「丁寧な言葉遣い」と、「家庭学習の定着」とを意識している。この結果、生徒の姿から、「丁寧な言葉遣い」に関して、その効果は出ていると思われるが、「川越町の取り組み」として、しっかり認識している生徒は、「良くあてはまる」を選択した10%程度であった。
 また、「家庭学習の定着」については、保護者のニーズが高い反面、生徒の定着ははかれていない現状にある。



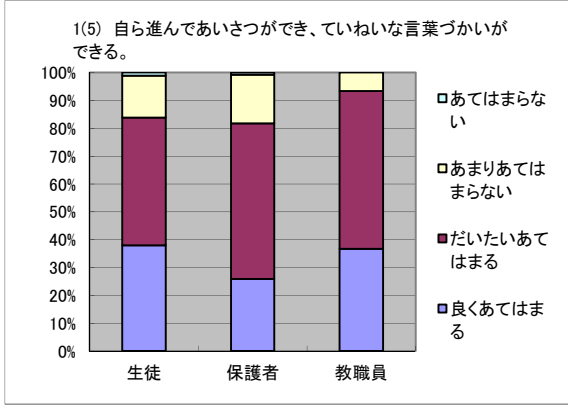
三者を比較すると、保護者の意見に「あてはまらない」という意見の割合がややあるものの、「良くあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせ80%程度を超える結果となった。同様なことが、生徒にもみられる。
 それに対し、教職員の部分は、「あてはまらない」という意見が見られない。ここに、学校側と生徒・家庭側とのギャップが生じている。そのため、現状維持ではなく、さらに積極的な取り組みを行っていく必要があり、またそれを、家庭に発信していくことが必要だと考えられる。



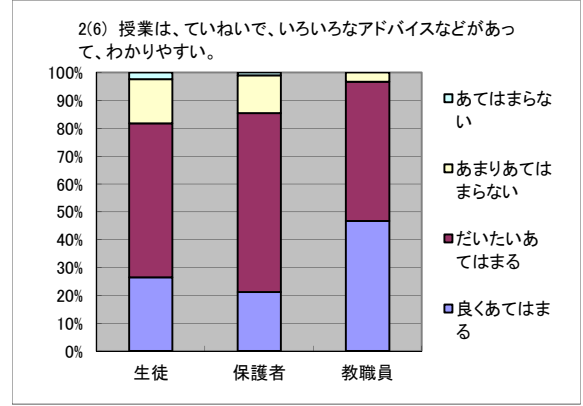
生徒と保護者の意見がよく似ていることから、学校のルールについては家庭でしっかりと共通認識が出来ているのではないかと考えられる。しかし、「あまりあてはまらない」がある程度見られ、また、教職員にネガティブな意見がないことから、現状のままでは改善には至らないであろう。また、「仲間と協力し…」という部分は、普通の学校生活の様子であることから、保護者に伝わらないことも要因となっているのではないかと考えられる。
 日頃の通信やHPなどで、生徒の活動の様子を細かく伝え続けていくことで、改善していけるのではないかと考えられる。



生徒の約70%が、「あてはまる」としているが、日頃の様子やテストの結果からすると、家庭学習に取り組む時間・姿勢とも、まだまだ厳しい現状にあると思われる。
 また、教職員の「良くあてはまる」も30パーセントにとどまっており、家庭学習定着に向けた指導を十分にできていない現状がある。



部活動や生徒会活動などを通して、あいさつはできるようになってきている。教職員の満足度が高いことから分かるように、教職員のあいさつに対する意識も高まってきている。保護者の満足度は、生徒・教職員よりも低くなっていることから、保護者が、自分の子どもがあいさつをしている姿を想像できないか、家庭でのあいさつが不足していることが考えられる。
 この項目に関しては、これからも教職員一丸となり、満足度を限りなく100%に近づけていくよう頑張りたい。



生徒、保護者とも昨年度と大きな変化はなく、「あてはまる」割合が高い。
 しかし、この部分の評価は、教職員の評価に比べると割合は低い。教職員は生徒がわかりやすいと思っているほどには、生徒、保護者がわかりやすいと評価しているわけではない。
 ここに留意して、どのような点に食い違いがあるか分析し、今後の授業改善のための研修をすすめていく必要がある。